

科目ナンバー： BC1041

授業コード： 2230100400

講義科目名称： 基礎看護技術演習Ⅰ

英文科目名称： Practice in Nursing SkillⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
◎岡村典子、川島良子、谷内田潤子、山岸美奈子、池田よし江、金井系未			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期	【授業時間】 30時間		
	【担当教員】 【氏名】 ◎岡村 典子 cn.ac.jp 川島 良子 kawasima@niigata-cn.ac.jp 谷内田 潤子 yachidaj@niigata-cn.ac.jp 山岸 美奈子 yamagisi@niigata-cn.ac.jp 池田 よし江 yoshiike@niigata-cn.ac.jp 金井 系未 cn.ac.jp 実務経験のある教員が担当します。 【本学の科目区分】 専門科目 【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程 【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 【DP7】 ○ ◎			
		【所属】 新潟県立看護大学	【研究室】 216	【メールアドレス】 norio@niigata-
		新潟県立看護大学	206	
		新潟県立看護大学	共同研究室1	
		新潟県立看護大学	共同研究室5	
		新潟県立看護大学	共同研究室1	
		新潟県立看護大学	共同研究室5	tkanai@niigata-

到達目標	1. 看護技術の科学的根拠を理解し、対象者の安全・安楽・自立を踏まえた生活援助技術が実施できる 2. 対象者の状況に合わせた生活援助技術を考えることができる 3. 感染予防の知識に基づいた標準予防策が実施できる
授業概要	学修する各看護技術の目的と意義、そして実施するための知識・技術を習得する。この科目では、感染予防、体位の変換と安楽、病床環境の整備、衣生活の援助、移乗・移送、食事の援助、排泄の援助、身体の清潔に関する技術について、必要な知識を学ぶとともに演習を通して技術の習得を目指す。また、対象の個別性に合わせた看護技術の活用・応用の必要性を理解する。 ※A・Bグループに分かれて少人数で演習を行う。詳細のスケジュール（担当教員含む）は後日配布する。
授業計画	1 授業内容 授業形態：講義 学修課題：ボディメカニクス、活動・休息 学修内容：姿勢、良肢位、関節可動域訓練 ボディメカニクス 体位、体位変換 移乗・移送 事前学修：筋骨格に関する形態機能学の復習をしておく。 事後学修：講義の内容を復習する。 備考：川島 2 授業内容 授業形態：演習 学修課題：体位の変換と安楽 学修内容：体位変換の方法 安楽な体位の保持 事前学修：手順書「体位変換」を通読する。 事後学修：体位変換の練習を行い、技術の習得をめざす。 備考：川島 3 授業内容 授業形態：演習 学修課題：感染予防① 学修内容：速乾性擦式消毒薬による手指衛生、標準予防策（病院の感染管理認定看護師との連携

		あり) 事前学修：必携図書（系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第2章 p64～p81）を通読する。 手順書「手指衛生：速乾性擦式消毒薬を使用する場合」「個人防護具の着脱」を通読する。 事後学修：学修した技術を繰り返し練習する。 備考：ゲストスピーカー、谷内田
4		授業内容 授業形態：演習 学修課題：感染予防② 学修内容：流水と石鹸による手洗い 事前学修：手順書「手指衛生：流水と石鹸による手洗い」を通読する。 事後学修：学修した技術を繰り返し練習する。 備考：ゲストスピーカー、谷内田
5		授業内容 授業形態：演習 学修課題：移乗・移送 学修内容：標準車椅子各部の名称と取り扱い方 車椅子の移乗・移送の方法 ストレッチャーの移乗・移送の方法 事前学修：必携図書（系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ p123～p137）を通読する。 手順書「車椅子への移乗と移送」「ストレッチャー（輸送車）への移乗と移送」を通読する。 事後学修：演習内容を振り返り、自己練習により技術を習得する。 備考：谷内田
6		授業内容 授業形態：講義 学修課題：環境調整、衣生活の援助 学修内容：病室・病床の環境の調整 ベッド周囲の環境整備 生活における衣服の意義 病衣の種類と選択 事前学修：必携図書（系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第1章 第6章B）を読む。 事後学修：講義内容の復習 「病床環境の整備」「寝衣交換」の演習までに、正しくリネン類をたためるように練習・習得する。 備考：池田
7		授業内容 授業形態：演習 学修課題：病床環境の整備 学修内容：ベッドメイキング リネン交換 事前学修：「環境調整・衣生活の援助」の講義内容・資料および、必携図書（系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第1章）を復習する。 正しくリネン類をたためるように練習・習得する。 手順書（ベッドメイキング、リネン交換）を通読し、イメージトレーニングを行う。 事後学修：ベッドメイキング、リネン交換を実施し、演習の振り返り用紙を記載し指定期日までに提出する。 自己練習により技術を習得する。 備考：池田
8		授業内容 授業形態：演習 学修課題：寝衣交換 学修内容：病衣・寝衣交換 事前学修：「環境調整・衣生活の援助」の講義内容・資料および、必携図書（系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第6章B）を復習する。 手順書（寝衣交換）を通読し、イメージトレーニングを行う。 事後学修：寝衣交換（和式寝衣）を実施し、演習の振り返り用紙（第7回と共通）を記載し指定期日までに提出する。 自己練習により技術を習得する。 備考：池田
9		授業内容 授業形態：講義・演習 学修課題：食事・栄養 学修内容：食事の意義 栄養状態・摂取能力のアセスメント 摂食・嚥下訓練 食事の環境調整、食事介助の方法 事前学修：必携図書（系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第2章）を通読する。 事後学修：演習内容を振り返り学習する。 備考：ゲストスピーカー、川島
10		授業内容 授業形態：講義・演習 学修課題：排泄① 学修内容：排泄の意義・機能 排泄に関するアセスメント 排泄を良好に保つための援助 床上排泄の援助 事前学修：形態機能学の腎臓泌尿器系と消化器系の解剖生理学を復習しておく。 事後学修：必携図書（系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第3章）を復習する。

	11	備考：川島 授業内容 授業形態：講義・演習 学修課題：排泄② 学修内容：排泄の意義・機能 排泄に関するアセスメント 排泄を良好に保つための援助 床上排泄の援助 事前学修：形態機能学の腎臓泌尿器系と消化器系の解剖生理学を復習しておく。 事後学修：必携図書(系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第3章)を復習する。
	12	備考：川島 授業内容 授業形態：講義 学修課題：清潔の援助 学修内容：皮膚・粘膜の機能 皮膚機能保持と身体の清潔 清潔援助の方法 事前学修：必携図書(系統看護学講座 基礎看護技術演習Ⅱ 第6章 p171～p177)を通読する。 事後学修：講義内容を振り返り、清潔ケアの意義および目的、種類とそれぞれの条件・方法について説明 できるよう復習する。
	13	備考：山岸 授業内容 授業形態：演習 学修課題：身体の清潔① 学修内容：清潔援助の実際 部分浴、陰部洗浄 事前学修：手順書(陰部洗浄、部分浴：足浴)を通読し、イメージトレーニングを行う。 「清潔」の講義内容・資料および、必携図書(系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第6章 p197～p205)を復習する。 事後学修：陰部洗浄を実施し、チェックリスト兼振り返り用紙を指定期日までに提出する。 自己練習により技術を習得する。
	14	備考：池田 授業内容 授業形態：演習 学修課題：身体の清潔② 学修内容：清潔援助の実際 全身清拭、部分浴、洗髪、口腔ケア、陰部洗浄 事前学修：全身清拭・口腔ケアの手順書を通読し、必携図書(系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ p186, p217)の二次元コードから、全身清拭・洗髪・口腔ケアの動画を視聴する。 事後学修：全身清拭・口腔ケアを実施し、チェックリストおよび振り返り用紙を期限までに提出する。
	15	備考：山岸 授業内容 授業形態：演習 学修課題：身体の清潔③ 学修内容：清潔援助の実際 全身清拭、部分浴、洗髪、口腔ケア、陰部洗浄 事前学修：洗髪の手順書を通読し、必携図書(系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ p191)の二次元コードから、洗髪の動画を視聴する。 事後学修：看護師役として洗髪の実施、または、患者役やガイド役の見学を通し、気づき・学びのレポートを 期限までに提出する。 備考：山岸
評価方法、評価基準	到達目標1～3に対し、下記の3点にて評価する。 1. 期末試験70%：期末試験として、目標達成度を最終的に評価する。 2. 課題20%：課題内容は、学習の進行に応じて講義時に説明する。 3. 学習態度10%：演習、グループワークに主体的・能動的に取り組んでいるかについて評価する。	
必携図書	自作テキスト：ファイルにて配布、ハンドアウト資料使用 有田清子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。 有田清子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。	
参考図書・資料等	阿曾洋子他：基礎看護技術，医学書院	
受講、課題、資料配布等のルール	・演習は時間の中で順序立てて進めていくため、20分を超える遅刻や途中退出は欠席とみなし、遅刻3回で1時限分の欠席とする。出席日数が規定に満たない学生は試験を受けることはできない。また、服装・髪型・爪などの身だしなみ、言葉遣いといった演習に取り組む姿勢にも留意すること。なお、学習課題の順番は変更する場合がある。 ・看護技術の習得を目指すため、課題へ意欲的に取り組むとともに、時間外の自己学習も必要となる。	
教員からのメッセージ	看護援助は、対象の立場を考え、対象に合わせて方法を選択し実践する力が必要となります。そのためには、看護技術に関する知識の修得とともに反復練習が欠かせません。自習時間を十分に活用した練習を期待しています。	
オフィスアワー	時間があえばいつでも	